

はじめに

上原 尚之

本章では、東京都市圏、福岡県福岡市、神奈川県鎌倉市、北海道札幌市、愛知県名古屋市、静岡県熱海市を対象都市として、それぞれの視点から各都市を取り上げる。

第1節では、東京都市圏の交通分野の諸課題に関して、空の玄関口、羽田・成田に着目し、現状における課題、今後の方向性について述べる。併せて、2020年に控えた東京オリンピックに向けての方針等についても取り上げる。

第2節では、福岡市を例に、超高齢社会・人口減少時代におけるコンパクトシティ活用と課題を取り上げる。来たるべき超高齢・人口減少社会において、いかに現状のコンパクトシティを活用すべきであるかを考え、述べる。

第3節では、鎌倉市における交通渋滞問題に関して取り上げる。今後、国内でも増えると思われる渋滞問題を、2020年の東京オリンピックまでの解決を目指す鎌倉市の事例から調査し、有効な対策と今後の展望を考える。

第4節では、札幌市に関して、観光都市としての成功の一因として、行政と市民が一体となったまちづくりという点に着目して取り上げる。

第5節では、名古屋市における、ごみ処理に関して取り上げる。名古屋市を成功例として紹介すると共に、その背景にどのような要因があるのかに着目し、他都市へ適用可能な面を導き出す。

第6節では、熱海市にあるまちづくり組織でのインターン経験を基に考察する。様々な取り組みから見えてきた地域の声を重点的に取り上げ、特に注目されがちな「活性化」などといったワードに埋没されてしまう声にも視点を向ける重要性を述べる。

以上、六都市に関して六者それぞれ独自の観点から述べていく。課題や施策はそれぞれで異なっているが、対象都市に限らず、その他の都市においても類似している問題や、参考として活用できる要素も少なくないはずである。自らの身近な都市についても考えつつお読みいただきたい。